

異常気象対策に必要な不可欠な情報

ここ 10 年ほど、気象が異常じゃないかと感じ続けていました。初めの頃は夏の異常な暑さだったわけですが、夏暑いからといって冬が暖かいわけではなく冬は冬で結構寒いのです（＝暖房費がかかる）。

これは本当にオカシイと決定的に思った事態は昨年 2 月の大雪でした。関東地方の南岸を低気圧が西から東へ進んで関東地方に雪が降るといふ昔からのパターンです。天気図を見ても特に強烈な低気圧というわけでもなく、どちらかといえば平凡な天気図でした。しかし実際の天候はどうだったかという、実に物凄いものでした。当日の午後から降り始めた雪は一晩中降り続けました。恐怖を感じる程の強烈な北風と湿った重い雪、どう考えても納得がゆかないというか理解出来ません。まさに「お手上げ」という心理状態でした。その上たいしたようには思えない低気圧がちっとも東へ進まないのです。後で分かった事ですが、オホーツク海上空だかアリューシャン列島上空に背の高いブロッキング高気圧が居座っていたため低気圧の東進が阻まれていたようです。

さらに同じ年 8 月の広島のと砂災害です。後述するリアルタイムレーダーで見えていたが、その時初めて「線状降水帯」を知りました。これがまた全く動かない、同じ所で長い時間と砂降りが続いたらまずロクな事はありません。

多くの方が私と同じような疑問を持っていたのでしょう。最近になってNHKでは異常気象に関する番組を集中的に放映しています。それを観ていると、一体どういう事態なのかはほぼ分かってきたようです。

それを私なりに整理してみますと：

- 1 最大の問題（＝原因）は北の気団と南の気団のエンタルピー（＝エネルギー）の差が大きくなり続けている事。
決して北の気団がより低温化したわけではなく、むしろ温度は少しずつ上がっていますが、それ以上に南の気団の温度が上がり、それにつれて気団のエンタルピーが指数関数的に上昇している。
- 2 ブロッキング高気圧などの影響で、低気圧や高気圧がスムーズに東進しない（同じ様な天候が長時間続く）。
- 3 北極の氷が減少し、冷気が北極付近に閉じ込められなくなって周辺へ噴出す現象が起きているとのこと。
当地でも氷の様に冷たい風が日中吹きまくるという事態が頻発します。

今回の異常気象は先月の 24 日位に始まり、約半月の間、極端に日照の少ない天気が続きました。その最後の 3 日間が多雨でした。

幸い線状降水帯から西側へ少し外れていたため大被害にはなりませんでしたが、これじゃもうお手上げだという気持ちになりました。

今後一体どの位の最大降水量を想定すればよいのか？ いささかテキトーですが、私は今までの最大降水量の倍位を見込んでおけばよいだろうと考えています。

過去最大が 600mm なら 1200mm ということです。その理由ですが、幾ら南の気団の温度が上がるといっても限度があるだろう、そもそも地球全体が受け取る太陽エネルギーはむやみに変動しないからです。

次は一体どのような自衛策をとれるのか？です。

大袈裟な表現になりますが、「自宅を要塞化する」べきです。少なくとも 1 週間分の食料・飲料水の備蓄はもちろん、2 階建ての場合は 2 階部分だけで一応の生活が出来るようにしておくべきです。つまり出来る範囲で公民館などの避難所で生活しなくて済むように工夫します。オーディオ装置などは水没を避けるために 2 階へ上げた方がよいでしょう。車も大切な生活財産ですから、車を避難させるための避難経路&避難先を日頃から検討しておくことも必要です。

それにしても一体自分の家の標高はどの位なのか？車の避難路は水没しないのか？車の避難先の標高はどの位あるのか？ 地域全体の高さ情報を知る事が重要です。

昔は地形図というと 2 万 5 千分の一が定番でした。しかしそれは等高線の間隔が広くて具体的な標高が分かり難いという不便さがありました。しかし今は強力なツールがあります！

それは試験公開されている国土地理院の「標高が分かる Web 地図」:

http://www.gsi.go.jp/johofukyu/hyoko_system.html

これは任意の地点にマウスのカーソルを移動し、右ボタンクリックでその地点のメートル単位の標高値を少数第一位まで知ることが出来る優れものです。

居住域が平坦地の場合、ほんの数センチの標高値の違いで浸水域の発生状況が変わるでしょうから、それを予測するためにも有益です。

次に（現在）一体どのような降雨状況なのかを知る必要があります。

そのための（これしかない！という）ツールが国土交通省防災情報センター（リアルタイムレーダー）です:

<http://www.ima.go.jp/jp/contents/index.html>

これは日本全国の降雨状況をくまなく知ることが出来て、データは 10 分毎に更新されて

います。また、過去から現在に至る降雨状況の変化を動画で見ることも出来ます。
この情報とアメダスなどの積算降水量情報を併せると、現在どのような状況にあるのかが
分かります。
あらかじめ、どのような状況になったらどのような具体的なアクションを起こすかを決め
ておけばよろしいかと思えます。予行演習をしておけば申し分ありません。

夏の冷房は不可欠、冬の暖房も必要、つまり生活コストが上がり、豪雨にも備えなければ
ならない。地震だっていつ起こるか分からないという受難の時代です。
それに対して手をこまねいていて、一切合財行政任せということはマズイと思えます。
出来る範囲で自分達の生活を自分達の手で守る工夫をすべきだと考える次第です。

以上